

第1回白壁賞は尾関豊氏らに

消化管診断学の進歩に尽力され、1994年12月に逝去された故・白壁彦夫先生の御偉業を記念し、本年から白壁賞が新設された。第1回白壁賞は、尾関豊、他「術前診断できた早期回腸癌の1例」(胃と腸 29:1207-1213)に贈られた。11月8日(水)、名古屋中小企業振興会館での「胃と腸」大会席上、その授賞式が行われた。

早期胃癌研究会代表の八尾恒良氏(福岡大学筑紫病院消化器科)から賞状、賞牌が受賞者代表の尾関氏(国立東静病院外科)に贈られた。八尾氏は「白壁先生はX線診断を中心に消化管の診断学、特に癌の診断学に偉大な足跡を残された。早期胃癌研究会に常に参加され、雑誌「胃と腸」を育ててこられた。白壁賞は、亡くなられた白壁先生を偲んで創設され、臨床的に優れた論文に与えられる」と白壁賞の創設趣旨を述べた。続いて、医学書院から賞金が贈呈された。選考委員を代表して吉田操氏(駒込病院外科)は「本論文はまれな早期回腸癌をX線・内視鏡像ともに鮮明な画像でとらえ、切除標本と綿密な対比も行われていることが評価された」と選考理由を説明し、1992年11月の早期胃癌研究会で提示された折りにも司会者から高い評価を得ていたこと、掲載時も、臨床概評の測上忠彦氏(松山日赤消化器科)を「小腸も早期癌の時代の到来か」と唸らせ、病理概評で渡辺英伸氏(新潟大学1病理)からも絶賛されていることを追加した。

尾関氏は、記念すべき第1回の賞を受けたことに感謝の言葉を述べ、「本症例は、土屋が微細病変を注腸で拾い上げ、内視鏡精検で診断をつけ、鈴木が綺麗なX線で描出し、手術、マクロ標本は私が担当した。病理は下川にまとめてもらった」と共同執筆者の協力により生まれた論文であることを強調した。「熱海の消化器病研究会を通じ、また牛尾先生(国立がんセンター中央病院放射線診断部)のお世話により、早期胃癌研究会に提示することができた。研究会の席上、肉眼型が隆起型が陥凹



▲尾関豊氏。



▲八尾氏から賞状を受ける尾関氏。

型か議論になった際、故・白壁彦夫先生から「陥凹を見る」との絶妙なお言葉をいただいたことが思い出される。白壁賞の名を汚さないように今後も努力を重ねていきたい」と述べた。最後に、広瀬一氏(岐阜大学1内科)、故・小山登氏、更に協力されたスタッフ、コ・メディカルの方々に感謝の意を表して、満場の拍手を受けた。



▲満員の「胃と腸」大会会場。

□訂正とお詫び□

本誌 30 巻 13 号 (1995 年 12 月号) 1734 頁『第 1 回白壁賞は尾関豊氏らに』の記事の中に、2 点誤りがありましたので以下のように訂正いたします。

左段 25 行目

(誤) “本症例は、土屋が微細病変を注腸で拾い上げ、

(正) “本症例は、土谷が微細病変を注腸で拾い上げ、

右段 4 行目

(誤) 広瀬一氏 (岐阜大学 1 内科)

(正) 廣瀬一氏 (岐阜大学 1 外科)

土谷先生，廣瀬先生，ならびに関係者の方々と読者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを謹んでお詫び申し上げます。

□「胃と腸」編集室□